

スラバヤ空港の珍事

● 放眼日中



6年ぶりにインドネシアに入国した。ジャカルタから800キロ東に行ったスラバヤという町に行く。インドネシア第2の都市といわれたが、首都ジャカルタの喧騒けんそうと比べれば、こじんまりした穏やかなところ。ただ、それでも朝晩はかなり渋滞があるのは(車は日本車が主流)、いかにも現代インドネシアだ。

スラバヤ空港はそれほど大きくなく、すぐにイミグレーション(入国審査)にたどり着く。私の前をフランス人カップルがさつと通過したので、私も簡単に行けると思いパスポートを出した。ところが、「帰りのチケットは」と聞くではないか。「これからメダン経由でKLに戻るのだから、すぐに別室に案内されてしまった。

昔のインドネシアなら、ここですかさず賄賂の要求があっただろう。だが今は違った。係官はきちんとした英語を話し、「あなたの選択肢は二つ。ここで帰りの便を予約するか、それともアライバルビザを申請するか」。なるほど、道理である。アライバルビザは50米ドルだったので、帰りの便を予約した方がはるかに安上がりだと考えた。

空港のフリー無線通信機Wi-Fi(ワイファイ)に接続を試みるも、なかなかつながらない。つながなければ予約はできない。すると係官が「この部屋は電波の通りが悪い。外のターミナルの辺りがいいぞ」と親切に教えてくれる。そこはイミグレーションの向こう側だが、なぜか横道から入る、ネットにつないだ。ところが、なぜか予約の決済ができない。これではチケットが買えず、入国スタンプももらえない。そこへ男性がやって来た。エアアジア職員が荷物を残して1人だけ出てこない乗客を探しに来たのだ。すると係官は「ちようどよい。彼からチケットを買え」と言うではないか。ああなるほど確かに。

職員が別室で私の予約をしてくれたが、やはりクレジットカード決済はできなかった。現金はないが銀行カードは持っていると言げると「じゃあ、ATMに行こう」となり、なんとまだ入国審査もしていないのに、入国審査ラインを完全に越え、空港出口を出してしまった。

何だこりや、と思いいながらもATMにたどり着く。だが、銀行カードを入れてもなぜかルピアは出ずに困ったが、財布を見ると100米ドル札が1枚あったので、そのまま替所へ行きルピアに交換し職員に渡して航空券予約の控えをもらう。元に戻って入国審査でビザ免除のスタンプをめでたく取得。まさに奇想天外的一幕。インドネシアのインフラ対応には問題があったが、いつからこんなに融通の利く親切な国になったのかと感心してしまった。



コラムニスト・アジアウォッチャー
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。